

近畿建設リサイクル表彰	会 長 賞
受 賞 者	株式会社 大林組 大阪本店 岬道路工事事務所
所 在 地	大阪市北区
受 賞 テーマ	盛土材（大粒径岩砕材料、シルト・粘性土を含む建設発生土）の現場内有効利用

【取組概要】

第二阪和国道道路改良工事において、30cm以上の岩やシルト・粘性土を多く含む盛土材として不適な建設発生土について、盛土厚の変更、施工機械の大型化、セメント系固化材による土質改良を実施し、盛土材として有効利用（350,000トン（100%））することで、工事間利用（再使用）を推進しました。

① 建設発生土の有効利用

建設発生土仮置場の返却期限が迫っていたことから、仮置場にある建設発生土を利用するよう発注者から要望があり、大林組にて土質などの確認をおこなったところ、30cm以上の岩やシルト・粘性土を多く含む、盛土材に不適なものでした。

そこで、大林組では次の提案（協議）を行い、採用され、建設発生土350,000トン（100%）の利用を実現しました。

- ・既定の盛土厚を30cmから45cmに層厚化するとともに、施工機械を大型化し、転圧（試験施工を実施し、締固めの管理規格を確認）。

- ・セメント系固化材を利用し、シルト・粘性土を盛土材に改良（改良前、改良後にコーン貫入試験を実施し、品質を担保）。

【評価】

仮置場にあった盛土材として不適な建設発生土を盛土厚の変更や土質改良し、それぞれに科学的検証（品質等確認）を行ったうえで、工事間利用させたが優れた取り組みとして評価できる。



機械の大型化による盛土材への有効利用